

## 川崎ジュニア文化大賞

### 私の海川崎の海

渡田小学校 5年生 中西 まつり

私は海がとても好きです。貝がらを拾ったり、ウェットスーツを着て、ボディボードをもって波打ちぎわでぷかぷかと浮いているとき、とてもいい気分になります。すな浜に落ちている木もどこからきたのか、おもしろい形をしています。

私の住む川崎にも海があります。川崎の海は私の好きな海と少しちがう良さがあります。

友達と家族みんなでバーベキューをする東扇島東公園には、人工のすな浜があります。先日は、兄たちとカニをとって遊びました。目の前の運河には大きな船が往復し、どこの国からきてどこの国へ行くのだろうとよく考えます。東扇島西公園では、つりができます。つり教室では、お土産に先生が「ここであつたんだよ」と言っていたタコをもらいました。家に帰ってから、タコ焼きにして食べました。

昨年12月、いな毛神社で行われた「わかめの種付け体験」に家族で参加しました。「わかめって、種からできるのかな？」と思っていましたが、「わかめの種」とは赤ちゃんわかめの事でした。赤ちゃんのわかめを、スタッフの方がゆるめてくれたロープに通して結ぶという作業です。はじめは力の加減がわからなかったけれど、何度かやるうちに、うまく結べるようになった気がしました。その後、東扇島浮さん橋にバスで移動しました。さん橋で漁師さんが来るのを待つ間、兄弟と遊んだり、運河ごしに見える工場の写真をとっていました。しばらくして、漁師さんが来て、私たちがロープにつけた赤ちゃんわかめを海におろしていきました。おろした場所には丸いウキがあり、目印にしているようでした。その日はその後、駅に戻って解散でした。

そして、2月になり、「わかめのしゅうかく祭」が行われるということで、また家族で参加させてもらいました。川崎マリエンまで家の車で行き、受付の後、バスに乗って浮さん橋に行きました。赤ちゃんわかめはどのくらい大きくなっているのか、わくわくしていました。しばらくして、漁師さんが来て、ロープを引き上げると、赤ちゃんわかめはすっかり大きなおとなのわかめになっていました。長さは3メートルくらいになっていたようです。青い大きなバケツに、入りきらないわかめが何度も何度も引き上げられました。お昼は、とれたわかめをぶた肉といっしょに調理してもらい、食べました。わかめはとてもコリコリしていて、いつも食べているわかめとはちがう特別なわかめな気がしました。食べる前に「わかめが海をきれいにしてくれる」という話を聞き、わかめは大きくなれるし海もきれいになるなら、どちらにとってもいいことだなと思いました。お土産のわかめもたくさんもらって、家では母におみそ汁を作ってもらって食べました。とっても美味しかったです。

話は変わりますが、私は1年生の冬に川崎の海が一番好きなところを見つけまし

た。それは、運河に映る工場の光です。1年生から乗れる屋形船の2階から、夜も動いている工場を見ました。父が働いていた工場もきれいに見ることができてうれしかったです。夜にでかけることはあまりなかったので、大人になれたような気がしました。

川崎の海は、私に海で育ったもののおいしさと、工場夜景のきれいさを教えてくれました。海のある町は世界にもたくさんありますが、私が「私の海」と思えるのは、すぐそばにある川崎の海です。私が大人になった未来の川崎でも、この豊かさを守れたらいいと思います。